



創立20周年を迎えてのご挨拶

横断型基幹科学技術研究団体連合会長 安岡 善文*

特定非営利活動法人横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）は本年度（2023年度）創立20周年を迎えました。横幹連合創立20周年を祝うとともに、これまで横幹連合の活動を支援いただいた皆様に篤く御礼申し上げます。

横幹連合は、2003年4月7日に30学会が参加して東京大学山上会館において開催した設立総会が出発点となります。発足当初より横幹科学技術とは何か、その必要性はどこにあるのか、どのようにその科学技術を推進するのか、についての議論を進めてきました。2009年度の総会においては、横幹科学技術を「論理を規範原理として、自然科学、人文・社会科学、工学を横断的に統合して異分野融合、社会的価値創出をもたらす基盤学術体系」と定義しています。学を繋ぐことにより「知の統合」を図り、さらに学界内の連携を超えて社会に繋ぎ社会的課題を解決するという横幹連合の基本的な考え方を示したもので、この考え方は、2021年度に改訂した“新横幹図”的考え方や、現在進めようとしているTransdisciplinary(TD) Researchに繋がっています。

また、2005年11月に長野において開催した第1回横幹連合コンフェレンスにおいては「コトつくり長野宣言」を発出しました。その中ではコトつくりを、「ものの形だけではなくその「機能」およびその機能を「創造するプロセス」を重視し体系化してゆくことである」と定義しています。社会的課題の解決には、モノつくりのみではなく、論理に基づいて学を横に繋ぐ「知の統合」によるコトつくりが不可欠であるという考えです。横幹連合ではコトつくりを実践する一つのプログラムとして、2018年度より「コトつくり至宝発掘」事業を立ち

上げ、「コトつくりコレクション」の募集を開始しました。

さて、横幹連合では創立20周年を迎えるにあたり、昨年度に20周年記念事業準備委員会（委員長：鈴木久敏第4代横幹連合会長）を設置し、記念事業の検討を開始しました。その結果、1. 記念式典の開催、2. 会誌「横幹」特集号の発刊、を核として記念事業を実施することとなり、現在、事業を進めているところです（準備委員会は昨年4月より20周年記念事業実行委員会に改組）。

記念式典につきましては、コロナ禍の概ねの収束を受けて、2023年6月13日に東京大学山上会館において創立20周年記念式典を開催することができました。オンライン参加の併用によるハイブリッド開催でしたが100名近い参加を得ることができました。また、記念特集号の発刊につきましては、記念特集号「20周年記念特集号（過去20年の歩みと将来に向けて）」をここに発刊することができました。本特集号は、創立以来の20周年の活動、特にここ10年の活動をまとめること目的としています。創立10周年を迎えた2013年には「横幹連合10周年の歩み」を発刊しましたが、本特集号はそれ以降の横幹連合の活動を中心にまとめました。冒頭で紹介した横幹科学技術やコトつくりについての定義については「横幹連合10周年の歩み」([URL: https://www.trafst.jp/document/10years/](https://www.trafst.jp/document/10years/))にまとめられていますのでご参照ください。

昨年6月に開催しました20周年記念式典におきましては、特別講演に小谷元子先生（東北大学教授、理事副学長）をお招きし「科学と社会～InterdisciplinaryからTransdisciplinaryへ」と題してお話を伺いました。学の様々な分野が連携して課題の解決を目指すInterdisciplinaryな活動はこれまで

*東京大学名誉教授

Received: 10 November 2023.

行われてきましたが、これでは真に社会の抱える課題を解決することはできない、その解決に向けては“学界を超えて”，社会と繋がり社会の人々と連携する Transdisciplinary な考え方が必要であるというお話をでした。

Transdisciplinary は横幹連合の英語の名称として発足当初から使われており（Transdisciplinary Federation of Science and Technology; TRAFST），横幹連合の核となる考え方でもあります。20周年記念式典にご列席頂きましたご来賓の方々（総合科学技術イノベーション会議松尾泰樹様、日本学術会議吉川忍様、横断型基幹科学技術推進協議会桑原博様）、またパネル討論での歴代会長・副会長の方々（吉川弘之様、木村英紀様、出口光一郎様、鈴木久敏様、北川源四郎様、遠藤薰様）から示唆に富んだ多くのお話を頂き、**Transdisciplinary** という考え方を理念から実践に移すことが重要とのご指摘を多数賜りました。

横幹連合は、一昨年にそれまでの横幹図を新たにし、新横幹図を作成しましたが、この改訂の趣旨は、それまでの学会を横断的につなぐという活動から一歩踏み出して、さらに学会を繋いだ成果である横幹知（統合知）を学界という枠を超えて社会に繋ぎ、社会が抱える課題を解決するという実践への意思を明示することになりました。これは

まさに Transdisciplinary という考え方そのものともいえます。まずは、その学としての方法論を提示しなければなりません。その実践に向けて、今年度より新たに調査研究会“TD（Transdisciplinary）概念の明確化とその研究評価システム”を発足させました。TD という考えを具体的に分かりやすく提示するとともに、そのための研究評価の在り方を提案することを目的としています。

横幹連合では20周年の記念事業として、記念式典の開催、および特集号の発刊を二大柱として進めてきましたが、20周年を機に新たに事業を進めることも計画しています。前述の Transdisciplinary に関する調査研究会の発足もその一環といえます。その他にも、横幹ロードマップの改訂（2009年に第一回目のロードマップを作成）、またモノつくり・コトつくりの考え方の再整理が計画されています。

生成AIや自動運転など新たな科学技術の展開は、日本の科学技術が世界をリードするために不可欠であり、その推進は待ったなしの状況です。遅れは許されません。横幹科学技術やコトつくりの展開を通じて、社会とともにその実践を進めることができます。横幹連合は次の10年に向けて前進します。これからも横幹連合の活動にご支援頂きますよう宜しくお願ひいたします。